

---

# ハチャメチャなライダー学園珍道中！！

カイル

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ハチャメチャなライダー学園珍道中！！

### 【Nコード】

N2314Y

### 【作者名】

カイル

### 【あらすじ】

この世界は、オリジナルライダーにリイマジライダーが入り乱れてるカオス空間。さらに物語の舞台は学校！？ライダーたちが送るドタバタ学園コメディ！！さらにはゲストも！？

## 登場人物紹介&用語集（前書き）

はい、というわけでまた懲りずに投稿。言い訳をするなら・・・

シリアス関係がスランプ。

笑ってはいけないもこれだけが息抜きではパンクしそうだから。

です。ああ、石投げないで・・・。

これは更新有りなので、その場合は最新話でお知らせします。

## 登場人物紹介&用語集

### ライダー学園

都内に存在する名門私立高校。中高大がそろっており規模や敷地、設備は一流品。内部は充実した内容となっている。寮が存在しており男子が「太陽寮」女子が「月下寮」。内装は一般ホテルよりはるかに上。都内にあるショッカー学院とは親しくしている両学生がいるが基本的に対立関係。

### 生徒名簿（原作より改変あり）

#### 高等部

尾上タクミ 16歳（ウルフオルフェノク／仮面ライダーファイズ） 所属 写真部

高等部2年生。高等部の主人公。元ラキクロの百瀬とは高校入学時代からの親友。怒らせると怖い人その一。

百瀬涼介 16歳（タイガーオルフェノク） 所属 生徒会  
高等部2年。元ラキクロで元ショッカー学院生。タクミとはラキクロと対立し、ショッカー学院からライダー学園に転入した時以来の親友。生徒会の副会長で次期会長候補。

#### 教職員

天堂ソウジ 31歳（仮面ライダーカブト） 家庭科教師  
高等部の教師。2年の家庭科担当。実家は生徒がよく遊びに来るおでん屋「天堂屋」。天然ボケである意味で神。

## 一般人

神童永司 19歳 (仮面ライダーオーズ／恐竜グリード ギル)  
ライダー学園高等部のOB。基本的に外国を旅してまわっているが最近では日本にとどまっている。やっぱり混沌神。ライダー学園では伝説的人物。オーズハウスという豪邸でグリードたちと暮らしている。

## 登場人物紹介&用語集（後書き）

さて、タグにもあるようにこれはギャグなのでコラボフリー作品です。もしコラボしたいのなら感想やメッセージに送ってください。以下、テンプレです。

キャラ名..

詳細設定..

継続使用..ありorなし

ここでの設定希望..

**新学期**っていろいろ大変だ。 (タクミ、永司視点) (前書き)

今回からウボアーさんとXXさんのキャラが登場!!

## 新学期っていろいろ大変だ。(タクミ、永司視点)

・・・ライダー学園、男子寮「太陽寮」107号室（タクミ視点）  
・

タクミ「ふう・・・忘れ物はないな。よっし。」

百瀬「おいタクミ、そろそろ出発するぞ!!」

タクミ「オッケー!!」

さて、みなさんこんにちは。尾上タクミです。今日はライダー学園の新学期です。僕らも進級し2年。後輩たちが3日後に入学してきます。え？なんで皆さんと会話してるかって？・・・主人公補正というやつですよ。そして僕の親友でルームメイトの百瀬涼介君。生徒会の副会長です。

7

百瀬「新学期早々の遅刻者はさすがにいないよな・・・」

タクミ「・・・否定できないよ？だって・・・ライダー学園だし。」

ここライダー学園は名門なんですが、いかんせん関係者の方々がとっても個性的なんです。名無しの皆さんも神経が強くなったりして一般人が見たら気絶レベルでも即死のダメージでもなんのその。とにかくすごいところなんだと覚えてください。

百瀬「しかし・・・永司先輩の伝説を破る人はいるんだろうか？」



タクミ「半世紀かけても無理だと思うよ。」

僕ら高等部のOBである神童永司さんは混沌神の異名をとる伝説の人です。中高6年間学年トップ、6年連続体育祭最優秀生徒、文化祭最優秀部門で総合優秀賞などなどあり得ないほど摂理をずたずたにした結果、混沌神と名付けられました。あとサッカー学院との抗争で300人を変身せずにKOしたりしてましたね。え、怪人もいましたけど？ドラスとか、ガラガラランダとか、ダグバとか・・・

翔二郎「こら、さっさと学校いけ!!」

二人「博士!!」

今でてきたこの人は左翔二郎先生です。担当は物理。授業がないときは科学室でなんかの実験をしたりするので皆博士って呼んできます。本業は科学者なんですが施設などの利用もかねてこの学校で教育をしています。お兄さんは左翔太郎さん。仮面ライダーWに変身する私立探偵です。博士も審判の記憶のライダー、仮面ライダーディシジョンになるんですが・・・いかんせんマッドな人で最近ではソウジ先生のゼクターが犠牲になりかけました。ちなみにここの管理もやっています。

翔二郎「百瀬、お前は今日は生徒会の準備で時間とるだろ!!」

百瀬「いけね!? ワリィ先行く!!」

タクミ「あ、うん。」

百瀬君が駆け出して行った。まあ生徒会だし仕方ないか。さて、僕も部活の件で報道部と打ち合わせしなきゃ。由里ちゃん・・・もう

来てるだろうな。

翔二郎「ほら、さっさとお前もいけ。」

タクミ「はい。」

・・・オーズハウス（永司視点）・・・

ガメル「えいじくおきろくく」

永司「（ーωー；）うーん・・・あと5分・・・ぐう・・・」

アंक「バカか何お決まりの寝言はいてやがる!!」

永司「（＜ω＞）あだ!？」

いててて、アंक痛いて・・・

メズール「アंक、少しやりすぎじゃないかしら？」

ロスト「お父さん、お母さんの言うとおりだよ。」

アंक「いや、こいつギルなんだからこんぐらいしないとおきないぞ・・・」

おいおい・・・。あ、皆さんこんにちは神童永司です。オーズだけれど俺はグリードのみんなと暮らしてるんですけどね。あ、ちなみに余談ですがグリードは全員リイマジですよ。オリジはアंकだけが出ます。ちなみのちなみに以下、世帯構成。

永司 家主

アंक ロストの父(?) メズールの恋人

メズール ロストの母(?) アंकの恋人

ガメル みんなの弟

カザリ 苦労人担当

ウヴァ 不憫担当

ロスト アंकとメズールの息子(?)

永司 「(・ω・)」ところで今何時？」

メズール 「8時30分過ぎよ。」

永司 「|||||||。・( つ厶、 )。・ やってしまったあああああああ!!!!」

カザリ 「ちよつとごは、うわ!?!?。・。・。・ 永司どうしちゃったの?」

アंक 「あいつ今日、始業式のOBスピーチしなきゃいけなかったんだが。・。・。・」

ロスト&amp;mp;ガメル 「。・。・。・」

メズール 「昨日、夜遅くまでこの子たちの遊び相手になってたのよ

ね……。」

——ダダダダダ……

——おい、永司どうし……はや!? 食うのはや!?

永司「(；一ω一) 行ってきまーす!!」

アंक「おう! 俺たちも後から追いつく!!」

……ライダー学園第一体育館（タクミ視点）……

ただ今僕はライダー学園の第一体育館に來ています。写真部全員でミーティングした結果、僕は自分のクラスを確認、担任だったソウジ先生に許可を得て始業式開始前までここで写真を撮ることになりました。3日後の入学式もここで行われるので既に装飾は完成しているため、アルバムの始業式、入学式欄に乗せる写真を撮るんです。ちなみにここライダー学園には第一、第二体育館があります。

タクミ「開始は9時からだっけ……。今は、8時54分か……。」

そう呟いてたらみんな入ってきました。僕のクラスが入ってきたら同じクラスだった百瀬君に席を聞いておこう。なんてことを考えながら写真を撮っていたら……

永司「(；一ω一) ギリギリセーフ……。開始までに間に合った……!!」

タクミ「永司さん!？」

永司「（へωへ；）あ、タクミくん……おはよう。」

タクミ「ど、どうしたんですか？」

永司「（—ω—；）それが寝坊してね……。だからトライドベンダーで来たんだよ……。途中、照井さんに「絶望がお前のゴールだッ！！」って追いかけてきたけど……。何とかラトラーターに変身して振り切ってきた。」

タクミ「いや、それってここに来るってことじゃ……。！！！」

——ドッカーン！！！！

——あああああああああ……。……。

アクセル「見つけたぞ神童！！！」

良太郎「およよよよ……。……。」

渡「↑下敷き

永司「＼（へ〇へ）／ナンテコッタイ」

タクミ「あああああ、渡君が……。……。」

というか照井さん……。警察が当たり前に人をはねた挙句、踏みつけるって……。！！

アクセル「さあ、おとなしくお縄に」

カブト「何やってるんだ照井君（笑）」

アクセル「とらいあるっ!？」

ああ、ソウジ先生!!

永司「(・ω・)ノシ お久しぶりです。」

ソウジ「ああ、卒業式以来だな。」

G3-X「照井さ……うわ!？」

良太郎「およよよ……!？」

アギトSF「何やってる氷川!!」

氷川さん、登場と同時に躓いて良太郎君にダイビングボディプレスしないでください。あとショウイチさん、あなたなんで中途半端にストームフォーム!？」

永司「(—ω—;) あー……すいません。俺に非があるんです……。」

アギトSF「安心しろ、アंकから事情は確認済みだ。上にも話を通したし……こいつの暴走は明らかに……。」

永司「(^ω^;) 想定外ですか。」

タクミ「とりあえず、怪我した二人の手当を……。」

永司「(^ω^)/任せて!!」

・・・数分後・・・

ソウジ『では、予定より数分遅れましたがこれより第18回ライダー学園高等部始業式を始めます。一同、起立。』

――ガタッ

ソウジ『礼。・・・着席。』

――ガタッ

ソウジ『それではまず、本郷学園長よりご挨拶です。宜しく願い致します。』

本郷「ああ。」

本郷さんが壇上に上がっていく。・・・やること一つ一つがカッコいいです。

本郷『みんな、まずは進級おめでとう。これから君たちは高等部の新たな1年を迎える。3日後には中等部の新学期。そしてこの学園の入学式が行われる。それは非常にめでたいことなのを感じてくれ。だが、それと同時にこれからの生活には注意してくれ。浮かれすぎで事故ったなんてシャレにならないからね。では、私の話はこれまでだ。』

ソウジ『起立。』

――ガタッ

ソウジ『礼……着席。』

――ガタッ

ソウジ『続いてはこの高等部のOBである神童永司君からの言葉だ。では、永司君宜しく。』

永司「ハイ。」

あ、永司さんの地の文から顔文字が消えた。これは真剣モードに入った永司さんだ！え、なんで地の文が見えてるのかって？主人公補正ですよ。

永司『皆さん、おはようございます。皆さんは覚えてくれてるでしょうが神童永司です。俺が卒業してから早くもひと月が経過しました。こうやって壇上に上がり喋ると生徒会長として頑張っていたのを思い出します。……よく運動部の助っ人をやったりもしてましたね。今となっては懐かしい思い出です。さて、皆も進級して新しい一年間が始まるうとしていますね。三年生は最後の一年間です。進学するか就職するか……大事な期間です。だからこそ後悔しないようにして自分で答えを見つけてください。二年生は高校に入って初めて後輩ができます。とても複雑な年になるでしょう。でもだからこそ自分を見失わずに過ごしてください。これをOBからの言葉とします。』

永司さんの言葉はなぜか聞き入ってしまう。カリスマにあふれているからだろうか？

永司『……ちなみにそこで喚いているショットカー学園の生



徒。出てきたら?』

え!?! なん・・・だって!?!?

永司『テルくん! その場所を撃って!?!』

テル「了解です先輩!?!」

生徒会長の門河テルさんがデルタム―バーで永司さんの示した場所を撃ちぬきます。そこにいたのは・・・

~~~~~続く~~~~~

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2314y/>

---

ハチャメチャなライダー学園珍道中！！

2011年11月17日19時50分発行